



家庭との時間を大事にしたいと思う男性が増えています

鈴木 清美(みつ2020)

私自身、日々、子どもに携わることが多く、乳幼児から幅広い世代と関わりがあります。近年、核家族化や共働き世帯が多く、女性は、仕事をしながら家事・育児と多くの事に追われていますが、そのなかでも家庭を大事にしたいと思う男性も多く、仕事をしながら家事・育児とやれることを率先してやっている男性が増えています。家族・子どもと一緒に過ごしたい。妻の出産後の育児を夫婦で一緒にやりたいと育児休暇・育児休業を取る男性も増えています。近年、お父さんが保育園送迎、小学生のお子さんの学童保育のお迎えに行かれている姿をよくみます。乳児さんを預ける場合は、ただ預けてくるだけではなく、園で決まっているセットをしてくれるそうです。



夫 30代(会社員)
妻 30代(会社員)
6歳・1歳
子供2人

1歳になったばかりの息子を毎朝、車で園に送り届けています。息子を抱っこして、詰め合わせたカバンを持って「おはようございます！」乳児室に入ると、タオル2枚ここに洗濯ばさみで挟む。エプロン3枚ここに1つつ入れる。帽子は、こちらの洗濯ばさみに挟む。オムツはここ。お昼寝時のパジャマとオムツ2枚はこの籠に。おしりふき、替えの服・下着・スタイはここ。お帳面はここ。籠に袋をセットして、毎週月曜日は、お昼寝布団のセットも。一通りやって「お願いします。」と園を出て車を置きに家に帰り、すぐに徒歩で駅に向かい電車で仕事に行くのが僕の毎日の日課です。夏休みに入れば、保育園の後は、小学1年生の娘を学童に送り届けて仕事に行きます。時間との戦いですが、可愛い我が子と関わって嬉しいです。保育園に持って行くカバン衣類などのセットは前日の夜に僕が準備しています。



夫 50代(会社員)
妻 50代(会社員)
子供2人

自分の方が先に帰宅したら、冷蔵庫の中を見てあるもので夕ご飯を作ります。誰が決めたわけでなく、ついでに洗濯物を取り込んだり、お風呂のお湯いれちゃったりしてます。帰宅した妻が「ありがとう！」と言ってくれます。



夫 70代(無職)
妻 70代(無職)

定年退職をして11年。夫婦で外食も行きますが、昼ご飯担当は僕です。焼きそば・うどん・そばで、麺ばかりですが、お取り寄せ商品で色々な麺を使用しています。妻は美味しい！と言ってくれます。自分の洗濯物は、自分でやって干す所も別々です。

●30代のお父さんが、4歳と2歳の男児2人を連れて子ども食堂にみえていました。3人で座って、おにぎり、豚汁、サラダ、フルーツを食べて、いつもやってみえるんですね。穏やかな表情でお子さんとも上手に接してみえて、みてる私も何だか、ほっこりしました。

●40代の男性、畑で野菜作りをされていて、収穫したお野菜で色々なご飯やスイーツを作られるそうです。家族が毎回☆美味しい！と喜んでくれるそうです。



・しそソーダ・唐辛子、なす、バジルを使ったペペロンチーノ・トマトジュース・バジルのジェノベーゼパスタ・枝豆のパウンドケーキ
エッグタルト・鬼まんじゅう・レモンケーキ

2023 年度ウィルあいち交流ネット役員

交流ネットとともに

会長 佐野 裕香子(Fem'09)

令和5年度の交流ネットのテーマは、**共に生きる～"べき論"はやめやあ**に決まりました。人生の先輩方、子育てにひと段落した方、子育て真っ只中の方々と活発に意見を交わしていく中で、1人1人が自立した上でお互いが支え合い、～だからこうすべきといった固定概念を捨て、これからの生き方を探ろうということになりました。

私が人材育成セミナーで学んだ十数年前、主婦として生活していた者にとって、男女共同参画という言葉は新鮮にさえ感じました。(実際は私が遅れていただけで、社会に向けて行動を起こしている人ばかりでしたが) 男なら強く逞しいのが当たり前、女なら家事をしないなんてありえない、料理が出来ないなんて...と思っていましたが、いろいろあっていいんだ、考え方は様々なんだなあと思うようになり、私自身も楽になりました。

先日、LGBT 法の「性同一性」の表現を「ジェンダー・アイデンティティ」に改めるとし、性的指向などを理由とする不当な差別はあってはならないとの記事を読みました。性的指向も様々で、それを声に出し認め合う社会に変わりつつあります。性的指向だけでなく、児童虐待、DV、貧困、ハラスメント問題等社会がかかえる課題は尽きませんが、私たち1人1人が自分らしく生きられる、そして次の世代に繋げていけるような今年一年の交流ネットの活動でありたいと思います。



副会長 杉本 浩子(Amelie'10)

2023年度副会長として少しでもお手伝いが出来れば幸いと思っています。

1990年代は殆どタイで過ごし、子供の環境作りに心血を注いでいました。

日本に戻ってから「自分らしい生き方してますか?」の問いかけから、一気に男女共同参画の世界に導かれました。まだまだこの道は多くの女性に必要とされるはず。

今年もさらに学びを深めたいと思います。



書記 金森 淑英(ベリーズ18)

今年度書記を務めますベリーズ18の金森淑英です。

セミナーで学んで随分長い時間が流れました。男女共同参画社会の実現に向けて少しずつですが社会は動いていると感じています。しかし、次々と新たな問題が生まれてきます。生まれるというよりは今まで見えなかったことが見えるようになり、気づかなかったことに気づくようになるというべきでしょうか。ですから、私たちは学び続け求め続けなければならない...と思っています。そしてこの交流ネットをそれができる場所にと願っています。



会計 鈴木 清美(みつ2020)

一宮市市役所(生涯学習課)の方からお声が掛かった事がきっかけで、総合政策部政策課の方から男女共同参画人材育成セミナーのお話を聞き、活動に関わる事になりました。

2020年度(令和2年)コロナ禍のなか人材育成セミナーを受講して、無事☆修了生となりました。私は日々、子どもたちと関わっています。そして、子どもたちから、たくさん元気もらっています。おいしいものを食べている時、とても幸せに感じます。

交流ネットに関わり3年目になりますが、財団の方々をはじめ本当にみなさん良い方ばかりで感謝☆感謝です。男女共同参画に関わり、多くのことを学び、そして得るものもたくさんです。

本当にありがとうございます。私自身、お役を受けたからには、何事をも楽しみたいです。どうぞ☆よろしく願いいたします。



2023年度事業計画

テーマ：共に生きる～"べき論"はやめやあ

- 2023年度ウィルあいちフェスタ参加(12月9日)
 - *今年も小野愛幸先生の占いです(^▽^) 当たると評判!
 - *「こんなにあった!“べき論”!! あなたはどう考えますか?(仮)」の展示もします
- 2023年度ウィルあいち交流ネットセミナーの実施
- 学習会(8月27日) テーマ：社会に内在する問題を探る ①少子高齢化社会と女性
 - *現在子育て中の方たちの声を聞きます
- なかま de セミナー (第1回6月会議、第2回7月会議……)
 - *会議後に仲間同士で行なう情報発信、交流等が目的の短時間セミナーです



歓迎 Women's Cup '22!



桂川 織江(Women's Cup '22)

22年度修了生として参加しました。普段は自営業で、各種デザインを中心にした様々な広報物の制作をしたり、ブランディング、IT、DX 関連の相談などを受けたりしています。仕事以外では2歳児を育てつつ、学位取得を目標に通信制の大学でゆっくりと法律科目を履修中。趣味は食べ歩きや旅行、ゲーム、映画鑑賞、読書など色々ありますが、その時その時に気になったことは納得するまで探究してしまうので、よく上の空になっています。

どこかでお見かけになられた際はぜひお気軽にお声かけ下さい。



舟橋 江里子(Women's Cup '22)

普段は事務職として働いています。足のむくみと戦っています。最近嬉しかったことは、5月に洗濯機を買い換えたなら、洗濯担当の配偶者が喜んでくれたことです。遠出は車より電車で行きたい派です。電車内で人間観察をするのが好きだからです。好きな映画はドキュメンタリーか事実に基づいたストーリーです。チョコレートが好きすぎてチョコレートスペシャリストという検定を受けたことがあります。製菓学校の学生に混ざって恥ずかしかったです。暇な時間は、数独を解いたり、クイズ番組を観て過ごしています。YouTube は税や控除に関するものをよく観ています。今チャレンジしてみたいものは、ルービックキューブを全面そろえることです。最近出かけてよかったところは琵琶湖テラスです。おすすめです。よろしくお願いします。



水谷 美穂(Women's Cup '22)

エステサロンのオーナーとフローリストをしております。来年でサロンはオープン5周年。そんな節目の年に、自身のステップアップの為、1ヶ月間渡仏することに決めました。緑とともに生きるフランス人にとって”花”は、生活必需品。2020年、パンデミックによるロックダウンが発令された際には「本や花は、心の栄養だ。生活必需品なのだ。」と市民から猛抗議が起き、花屋もフードスーパー同様に開ける事になったほどです。今の時代求められているのはそんな、心を豊かにする、今よりほんのちよつと丁寧な暮らし。それは自身を癒やす時間でもあります。女性の心の自立にも通ずる部分があると感じております。日々懸命に生きる女性を応援するサロンとして、これからもたゆまなく努力を続けてまいります。



通信編集委員会@2023 ウィルあいち交流ネット



編集委員長 森田 登喜子(ウィル 2000)

交流ネットは県下に多くの参加者をもっていますが、実際には月例会でウィルあいちに来ている各グループ代表中心の活動になりがちです。限られた時間で活動するだけでなく情報交換・交流を図っています。通信も有効な交流手段です。昨年度から通信作成協力グループを作りました。多くのメンバーの声が響き合うような通信を理想としています。



活動内容の告知、報告とともに、メンバーの日頃の活動や想い、有益な情報なども掲載していきたいと思います。多くの方の投稿をお待ちしています。

編集委員 山田 和枝 (Step'09)

JTB 発刊の旅のガイドブック「るるぶ」の語源をご存じですか？それは「忘れられた日本人」の著者宮本常一が1967年に発刊した「あるくみるきく」の中にあっただけです。それをJTBが真似て、「みるたべるあそぶ」の語尾から生まれたのです。私たちの報告書にも女性の生きる息吹が伝わるようなインパクトのある言葉が表題として欲しいと思います。 **参加者一人一人の息吹を言葉に！**



こんにちは。お元気でしたか。ご無沙汰している間、世間では信じがたいことが次々と起こりました。ええ、おっしゃるとおり、それらは解決されるどころか依然として進行中です。



私はシス女性で、「日本人」で、「健常者」で、非正規雇用の労働者で、妻で、その他にも、あなたと同じようにさまざまな属性を持っています。才能も才覚もない初老にさしかかった女が、ただ普通に生きていくことって存外、難しいですね。いみじくも、女性学は当事者研究であると定義した社会学者もいました。私の生きづらさはたくさんの女たちのそれと重なる部分もあるでしょう。社会構造が女性に押し付ける不平等や非対称性には喧嘩上等で対峙すべしとつねづね心に誓っています。ですが、タコツボ化した女たちの声がマイノリティを踏み潰すようならば、それは敗北だとも思うのです。

本年度、ウィルあいち交流ネットのテーマは「共に生きる～“べき論”はやめやあ」です。そのとおり。生きづらさの問題は大抵、多層的な世界の間領域にあります。複雑なものごとをゼロサムで考えたり、二項対立で分断化させるのを止めたときに、初めて共生の社会が見えてくるのではと思います。

'23 なかま de セミナー1 報告 「食べ物の循環とSDGs」 森田 登喜子(ウィル 2000)

食べることは他の生物の生命をいただいて自分の生命を保つことで、誰もが真剣に向き合わねばなりません。忙しい生活の中でなおざりにされがちです。人任せ、外食、中食、孤食などさまざまな問題があります。目を外に向ければ「飢餓」、「水不足」、「天然資源の枯渇」、「過剰な食品・廃棄」などが挙げられます。それらは、「このままでは地球のエネルギーは枯渇する、いつまでヒトは生き延びられるのか?」という不安に繋がります。

国連は「SDGs(持続可能な開発)」で 17 の目標を定めて、貧困、不平等・格差、気候変動による影響など、「ヒトが生き延びる」ために世界のさまざまな問題を根本的に解決しようと試みています。SDGs という言葉は遠く感じられますが、「食べること」は私たちが毎日していることです。特にSDGs の第 5 目標「ジェンダー平等」は、女性がしっかりとリーダーシップを取らねば食の問題が解決しないと示しています。

食のめぐり

①農業、漁業、牧畜業 ②食品加工業 ③スーパー、コンビニ等 ④消費者 ⑤廃棄業者、と食べ物は①～⑤のルートで消費され廃棄されています。また、食品の大規模移動のために大きなエネルギーが費やされています。下図を参考に、それぞれの段階で SDGs の何番の目標と関連しているのかを考えました。

また、廃棄物を飼料として役立つ「めぐりふード」活動が始まっていることを話題にしました。



意見・感想

- ☛ 全目標が全ステップのどれかに関連する
- ☛ 食品の安全性、環境への影響も考慮する
- ☛ 排水の処理は安全な水と深く関係する
- ☛ 商品にできないトウモロコシが飼料になり、飢餓に苦しむ人たちには届かない
- ☛ 食品ロスを防ぐ活動もみられる
- ☛ 食品ロスを防ぐ教育が必要
- ☛ 小学生の娘がSDGsを学んでおり、賞味期限の新しい食品を取り出して注意された他

昨年度のウィルあいち交流ネットセミナーでは映像ジャーナリスト玉本英子さんの講演会の他に、地域開発みちの会のSDGsプロジェクトおよびあいち男女共同参画財団と初めての三者共催事業「玉本英子写真展／紛争地に生きる人々」を開催しました。女性の捕らえた映像には大きな共感があり、「世界の実際の状況を知ることができた」「これからの人生を考える糧にしたい」と大変好評を得ました。

地域開発みちの会 SDGs プロジェクト代表の油田淑子さんから共催への感想をご寄稿いただきました。

共に学んだ「ジェンダー・平和・共同」

地域開発みちの会 SDGs プロジェクト代表 油田 淑子

2021年8月早朝 NHKTV の「100分で名著」でアレクシエビッチの証言文学「戦争は女の顔をしていない」を視聴した直後ロシアによるウクライナ侵攻が勃発した。

3歳時、横浜で B29の空爆を体験して鎌倉に疎開し、生き延びた私は「戦争と女性や子ども」に無関心ではいられず、地域開発みちの会のプロジェクト事業で、読書会、映画鑑賞会等を提案した。

知多市市民活動センターで、川口リョドミラさん手作りのウクライナの家庭料理を味わった経験のある、みちの会の会員からはウクライナ支援をしたいとの声が上がった。

そんな折、「ウィルあいち交流ネット」主催の川口リョドミラさんの講演会「いくさ世の私たち～ウクライナを知ろう」が8月28日に開催される事を知り、みちの会会員も参加させて頂いた。

11月には国際交流はなのき会主催、ウクライナ人ナターシャ・グジー出演のウクライナ支援チャリティーコンサートにも協力した。

何時まで経ってもロシアによるウクライナ侵攻が終息しない中「ジェンダーと戦争」を考える日々を過ごし、再び「ウィルあいち交流ネット」と協力し、財団の協力も得て、戦地に赴いて活動している女性カメラマンの講演会と写真展を開催することになった。いずれも大好評で、参加者から多くの感想も寄せられた。

今回、複数の組織が共有する課題に取り組んだことで会員同士の共通理解も深まり、講演会も大好評、特に、



写真展では感受性の強い若い世代からの感想も寄せられた。

これからも、組織の枠を超え、「ジェンダー、平和」などの共有の課題を共に考え、手を取り合って行動することで、成果を上げたいと期待している。

ウィルあいち交流ネットは、2001年ウィルあいちセミナー等の受講修了生の自主活動グループが結成しました

さわらび会 / メンズリブ名古屋 / 女性学 '98 の会 / グループキーツ / ウィル 2000/I.W.I.L
ウィル Do2002 / サーティネット '05 / ベリーズ 18 / Step07/ Fem.'09/Amelie '10
ひかるよ '15/ そだね! 2017/ Hey Say Final/Reiwa'19/ みつ 2020/ リモート 2021
Women's cup' 22

2023年6月発行

編集発行:ウィルあいち交流ネット 協力:(公財)あいち男女共同参画財団